

改憲阻止に向けて 各地でさまざまな取り組みが

2月10日（日）に高教組は第189回中央委員会を開きました。そこで、憲法3000万署名について、各地での取り組みが報告されました。分会ニュース等を活用した職場内での取り組み、対話活動、校門での署名活動など、工夫を凝らしたさまざまな取り組みが紹介されました。

安倍首相は、2020年の「憲法改正」に間に合わせるため、年内にも国会で改憲を発議し、国民投票に持ち込むつもりでいます。中央委員会で報告された取り組みを参考にして、県下全域で3000万署名の行動を盛り上げましょう。

「何かしなければ」と分会会議を開き、分会員だけでなく、多くの呼びかけ人を募って署名の呼びかけを行った武庫荘総合分会。

呼びかけのビラと署名用紙をセットで配り、現在42筆。署名を寄せてくださった方から「憲法改正反対どころじゃない。アベ政権は即退陣だ」との声も。

3年生の考査最終日に、校門前で宣伝行動を実施した西宮南分会。西宮の新婦人の方が校門前で校門から出てくる3年生に署名への協力を訴えました。40分で107筆もの署名が集まり、「頑張ってくださいと声をかけてくれた生徒もいて、元気をもらいました」と感激しておられました。

教員が生徒向けの署名に直接携わるのは、地位利用と受け取られる可能性もありますが、OBの方や他団体の方が署名行動を行うのであれば大丈夫です。

学校近辺の戦争遺構を取り上げ、平和の問題を身近に考えてもらえるように工夫した分会ニュースを発行し、全職員に署名を呼びかけた姫路聴覚特別支援分会。現在65筆を集約。署名を回すだけではなく、対話が大切との教訓も。署名を集める中で「北朝鮮のニュースなど、戦争へのムードが徐々に作られているのが怖い」との声も。「やれば集まる。踏み出さないといけない」と発言を締めくくられました。

松陽分会でも分会ニュースを発行。確定署名より多い40筆を集約。支部では駅前での署名活動も計画中とのこと。

明石南分会では1月から署名活動を開始。現在50筆を集約。政治的な課題であり「遠慮させていただきます」という方もある中で、「絶対に憲法は守りましょう」という声も。対話をしながら丁寧に活動をしていく必要を感じたとのことでした。